

東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

コープぐんまが第2陣(3/28~3/31) 第3陣(4/3~4/7) 第4陣(4/6~4/9)の支援を実施しました

<第2陣> 3月28日(月)~31日(木)

「想像を絶する苦難を乗り越えて、復興に向けた力強さを感じました」

○コープぐんまは総合企画室機関運営課の早川正義さんと同参加とネットワーク推進課の城田洋さんが参加していわて生協への支援活動を行いました。

○28日9時15分コープぐんま本部で出発式を行い、商品を満載したコープデリの配送トラックで出発、盛岡市郊外にあるいわて生協本部(岩手郡滝沢村)には午後6時頃に到着。コープネットの支援グループと合流、中二日間の移動販売支援を行いました。

○(1日目)29日は、2時間半ほどかけて移動し山田町で販売活動を実施しました。(山田町は中心部が壊滅し犠牲者は533人、行方不明者378人:3/10現在)最初に、避難所となっている関口地区の児童館に近い「やまだ共生作業所」前で、次いで浜地区に移り、消防団の方の協力で開設場所の指示を受け移動販売を実施しました。青果やいちご、飲料、チョコレート(など甘い菓子)を



一日目の販売支援の様子

を求める方が多く、他に

にラップ、牛乳、ヨーグルト、納豆、生活雑貨、嗜好品などの要望が強かったそうです。35名ほどが利用されました。

○(2日目)30日は、前日要望の強かった商品を追加して、釜石市中心部を抜け大槌町に向かいました。(大槌町は犠牲者583人、行方不明者は1068人、中心部が壊滅:3/10現在)最初に桜木地区で実施し、20名ほどが利用されました。

午後は釜石市に戻り鶴住居(うのすまい)地区で

実施。午前中に釜石市内のスーパーが移動販売に訪れたにもかかわらず、およそ100名の方が利用され、期待の大きさが分かりました。

○支援に行った早川さんは「今回の支援活動に参加して、報道で発信されている被災地の状況はほんの一部であり、実態は計り知れないほど甚大な被害となっていることを実感しました。(略)被災された方々の心痛は想像を絶するものと思われませんが、移動販売中に感じたことは、復興に向けみなさんがそれぞれに努力をされていて、大変さを感じさせない力強い生活感を持っていたことです。私どもの支援は、ほんの一部ではありましたが、そんな人達の力添えになったと実感できる支援活動でした。被災地の状況や支援内容を一人でも多くの方に発信し、一日でも早い復旧、復興を祈りつつ努力してまいります。」と話していました。



二日目の様子



被災地の状況

<第3陣・第4陣> 4月3日(日)~9日(土)

みやぎ生協の共同購入再開にむけた支援に4名を派遣しました

○コープぐんまは4月3日(日)から9日(土)まで、みやぎ生協の共同購入再開支援のために2回に分け計4名の職員とトラックを派遣しました。

支援物資として、「火を使わずに食べられる食料と子どもへのプレゼントになるものを」と、クロワッサン2000個、ひと

くちチョコ400袋、草加せんべい、野菜バー、飴、かりんとうをそれぞれ200袋を積み込みました。

○前半(4月3日~7日)は沼田センターの田島貴徳さんと桐生センターの田村悠治さんがトラックに乗って出発、後半(6日~9日)の東前橋センターの猪熊智大さんと富岡センターの岡田学さんが乗って行った普通乗用車に乗り換えて群馬に戻りました。

○4人はまる5日間、みやぎ生協の4月2週からの共

同購入再開にむけ支援を行いました。具体的には組合員へのお見舞い活動や、安否確認を兼ねた商品のお届け活動などを行いました。



猪熊さんと岡田さんを見送る本部職員



出発式の田島さんと田村さん

コープぐんまの理事・コープ委員さんが店頭で募金の訴え

コープぐんまでは、4月5日(火)、4月6日(水)の両日、5店舗の店頭で東日本大震災で被災された方々への義援募金活動を行いました。

全体でコープぐんま職員6名と組合員25名が参加し、各店舗の店頭で義援募金のお願いをしました。春休み中ということもあり、お母さんと一緒に子どもさんも8名が参加してくれました。

募金してくださった方からは、「応援しています！頑張れ！」「一日も早い復興を祈っています」「体を大切に」「みんなが笑顔で暮らせますように・・・」などのメッセージが寄せられていました。

2日間の活動で24万円を越える義援募金が集まりました。この義援募金は、日本生協連を通じて被災された各県に送金させていただきます。

また義援募金は、コープぐんま各店舗では5月20日まで、コープデリ宅配では、OCR募金で5月13日まで受付をしています。みなさまの暖かいお気持ちを、被災地の一日も早い復旧、復興に役立たせていただきます。



店頭で義援募金活動を行ったら、たくさんの方がメッセージも書いて下さいました。

(情報提供：コープぐんま総合企画室)

群馬中央医療生協が群馬民医連の医療支援チーム第5陣（4/4～4/7）を松島海岸診療所（宮城県松島町）に派遣しました

<第5陣> 4月4日（月）～7日（木）

○群馬中央医療生協は4月4日（月）から7日（木）にかけて、群馬民医連の医療支援チームとして大庚世美子看護師、高橋秀彰看護師、小林貴広理学療法士、鈴木雄児言語聴覚士の4名を、松島医療生協の松島海岸診療所の医療支援に派遣しました。

○『前橋協立病院 UP-TO-DATE』に掲載された記事から、発行者の許可を得て現地レポートなどを転載してご紹介いたします。

①（支援チームからの報告です）

『初日は11時に、松島海岸診療所に着きました。着いて早々、心温かい診療所の組合員さんのカレーを頂きました。一通りの説明を受けた後、実際の災害地に見学に行きました。電車のレールが曲がりくねっていたり、田んぼが崩壊し川のように流れてしまったり…。正直言葉が出ない光景でした。また、診療所のエレベーターが震災で使用できないため、車椅子の患者さんを階段から降ろす手伝いをしました。明日は診療所の正職員さんのお宅が津波で一部壊れてしまったため、そのお掃除に行ってきます。』（前橋協立病院 UP-TO-DATE:No.3(2011年4月5日)より）

②（松島現地対策本部岩須さんからの報告の抜粋です）

（1）診療所などの様子

被災直後から休まず奮闘されている山崎所長をはじめ職員のがんばりで、今週から医科歯科の診療を再開し、デイケア、訪問看護ステーションも元気に活動しています。なるせの郷デイサービスでは、職員3人、当日利用者12人が亡くなりましたが、悲しみのなか、残った職員は診療所のデイに移動し、懸命に仕事にとりくんでいます。大友理事長をはじめ地域の理事、組合員の方々が数人連日結集し、私たちの支援隊の訪問活動のコースづくり、地図づくり、昼食のたきだしなどで全面的な協力をいただいています。特に昼食は「全員持ってきているから」と遠慮したのですが、「全国からのみなさんのため、そして診療所のために何かしたい」というご厚意に甘えています。（同No.4(2011年4月5日夕刊)より）

③（再び支援チームからの報告です）

被災地支援報告《PT 小林貴弘 ST 鈴木雄児さんより》

『今日(4月5日)は、山形民医連と山梨民医連と群馬民医連の混合チームで被災者の自宅へ訪問に行きました。主に健康状態確認とマスクや湿布、軍手などを提供しました。風邪が蔓延しているため、マスクは助かるよと言っていました。健康状態確認では血圧測定や包帯で骨折部位の固定などをして安心された様子でした。明日も訪問予定です。被災者の支援に頑張ります。』（同No.5(2011年4月6日)より）

④（支援チームからの3度目の報告です）

昨夜、第五陣の4名が無事任務から帰り、丁度開催中の前橋協立病院管理会議で簡単な報告して会議参加者からの労いの拍手を受けました。前後しましたが、彼らが現地から発信した報告を以下に掲載します。『本日(4月6日)は、活動拠点である松島海岸診療所の周辺の組合員の住宅訪問に行きました。周辺住宅は、津波による床上や床下浸水がありました。浸水の後片付けは、大分片付いた印象でしたが、疲労感がピークの様子でした。近隣でも高台にある住宅はほとんど損壊はありませんでした。今週から水道が復旧して親戚や避難所から戻られた方が多かったです。診療所の近隣はライフラインは復旧しています。訪問時は、昨日と同様に健康状態確認と湿布や軍手、マスクなどを提供しました。後片付けの疲労感から湿布の提供は感謝されることが多かったです。組合員の松島海岸診療所に対する信頼感が強い印象を受けました。明日の最終日も住宅訪問活動を頑張ります。』（同No.8(2011年4月8日)より）

○日本テレビで4月7日（木）夜放送のニュースZEROで、松島診療所・なるせの郷の様子が放映されました。